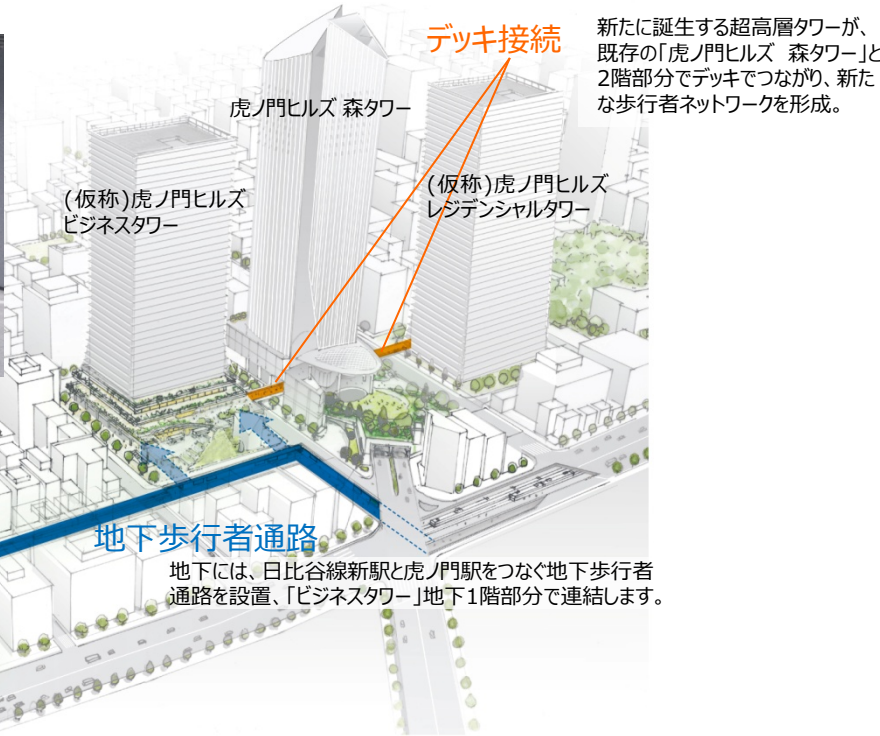


都市インフラを拡充

開発にあわせ、空港リムジンバスやBRT(バス高速輸送システム)も発着可能なバスターミナルや、周辺市街地を結ぶバリアフリーにも配慮した歩行者ネットワークを整備するなど、国際新都心・グローバルビジネスセンター形成に向けた都市基盤の拡充を図ります。



ビジネスタワー1階に設けるバスターミナル

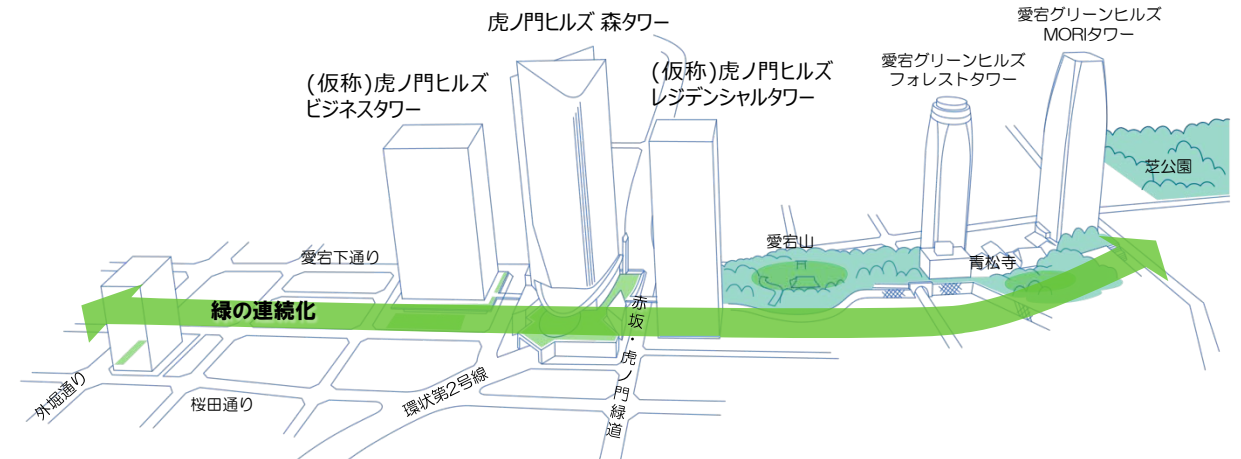


環状2号線の開通により、羽田空港や成田空港ともスムーズにアクセス。都心と臨海部を結ぶ新たな交通手段としてのBRTも開通することで、虎ノ門エリアは世界と都心を繋ぐ「東京の玄関口」となります。



エリアをつなぐ緑

虎ノ門ヒルズ森タワーのオーバル広場、ビジネスタワーおよびレジデンシャルタワーの低層部の緑が連続。さらに、隣接する愛宕山や愛宕グリーンヒルズの緑とも緑道でつながること新たなグリーンネットワークをつくり出します。



ビジネスタワー外構



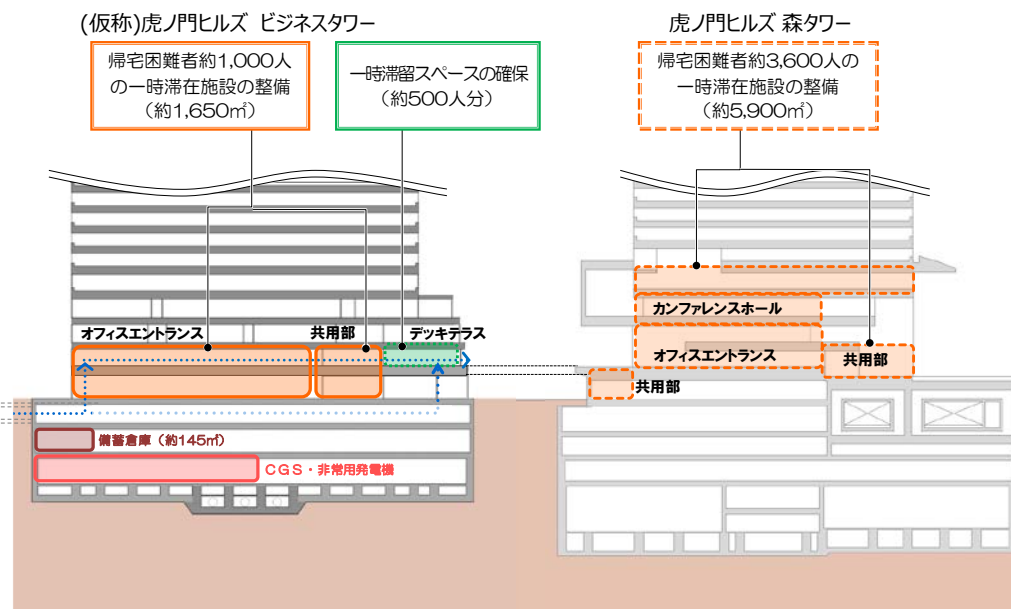
虎ノ門ヒルズ 森タワー オーバル広場



レジデンシャルタワー外構

地域の防災拠点として機能

ビジネスタワーでは、帰宅困難者対策として、約1,000人分の一時滞在施設を整備。虎ノ門ヒルズ森タワーの約3,600人とあわせて約5,000人規模の滞在スペースを確保します。備蓄倉庫や防災井戸、災害用電力を確保し、地域の防災拠点としての役割を果たします。



備蓄倉庫 (イメージ)



防災井戸 (イメージ)